

生産現場「見える化」

ナ・デックス 管理システム拡販



製造現場管理システムのイメージ画面

生産履歴 追跡機能も 車業界などに提案

機械商社のナ・デックス（太田善教社長）は、製造現場管理システム「KN・POP」の拡販に力を入れる。納期や設備の稼働状況など生産現場の「見える化」や生産履歴追跡機能を兼ね備えたソフトウェア。自動車業界に加え、電機、機械メーカー向けなど幅広く提案する考え。年10社の新規契約をめざす。

（菊地治滋）



太田善教社長

「KN・POP」は、市場変化に迅速対応することを目的に開発した製造管理システム。生産計画に対しての実績や設備の稼働状況、作業者の稼働時間など

を可視化し、業務効率の改善につなげることができるといふ。中小の製造メーカーでは、一部の工程で不良が発生した場合、翌日以降にその原因が発覚するケースがある。不良品を後工程に流さないために、生産の進捗よく状況をリアルタイムに把握する必

要がある。「KN・POP」管理台帳などもデジタルという。中小の製造OPは、各生産工程の稼働状況などを記録し可視化することで予想されるトラブルを未然に防止する。

また、製造現場で使っている作業手順書や各種検査記録表、品質データをクラウドで処理できる。一定のコスト削減効果も期待できる。

価格は355万円から。大手ITメーカーに同様のシステム構築を依頼すると、数千円を要している。

太田善教社長は「最新のテクノロジーを駆使した『見える化』技術を日本のモノづくりを支えていく」と話している。

価格が355万円から。大手ITメーカーに同様のシステム構築を依頼すると、数千円を要している。

